

特別委員会 防災

地域に合った 防災・減災対策に向かって

防災対策特別委員会委員長 尾 元 武

昨年12月本委員会が設置され、防災についての調査・研究をすることになった。南海トラフ地震の被害推計も夢想だにしないほど大幅に見直された今、防災に対する思いを書き綴る中にも、東日本大震災の記憶が風化することなく、何かの一助になればと祈るばかりだ。

さて、大きな災害には「地震・津波」「風水害」「土砂災害」があるが、まず自分は大丈夫と被災することを人ごとのように思ったり、万が一被災しても誰かが助けてくれるでしょうは大きな思い込みだ。平素から非常時に備えて自分自身を守る体制（自助）・また自主防災組織等の地域住民が自主的に連帯して防災活動が行なえる体制づくり（共助）の意識とその準備は不可欠と思う。

「天災は忘れた頃にやってくる」との諺があるが、今や「天災は忘れる間もなくやってくる」が正しいのかも知れない。過疎化・高齢化に拍車のかかる本町ではどのような対策を進めるべきか地域ごとに地理的条件、生活環境等の状況が違っている。台風などの予測可能な災害であれば準備もできるが、地震は明日かもしれない、いつ起きるのか、夏なのか冬なのか、また夜中なのか昼間に発生するのかその時間帯に



（防災対策特別委員会 2013. 3. 18）

よっても対応は大きく変わる。このような状況の下、地域ごとの内情を詳しく知っているのは地元議員であり、地域ごとの対応を提言できるものと自負している。

対策を行なう執行権は議会にはないが、町担当課と両輪となって非常時に備えた調査・研究が防災・減災に繋がるような結果になるようにと8人の委員ともども頑張っています。故事に「居安思危 思則有備 有備無患」安きに居りて危うきを思う「備えあれば患いなし」どこまでも、「自分の命は自分で守る」を大前提にいざという時に備えたい。

皆さんのご意見もお聞かせ頂ければ幸いです。安心安全な町づくりに向かい研鑽を積んでまいります。